

和歌山ニット

和歌山県

商品・サービスの
ブランドの創出**BtoB、BtoCの両輪経営を目標に、企業グループを主体とする最終製品開発や若手育成に向けたプロジェクトを展開**

実施主体：事業者グループ（WAKAYAMA KNIT PROJECT）

和歌山ニット産地は国内最大の丸編みニット生地
の生産地であるが、その大半はOEM形態であり、メー
カーが消費者の声を直接聞くことが少ない。

2023年、地元の若手社長10社による
「WAKAYAMA KNIT PROJECT」（WKP）が発
足。最終製品を保有し、BtoBとBtoCの両輪で、和
歌山ニット企業の技術力の高さと製品の風合いの良
さを知ってもらうための活動を開始した。

参画企業のブランディング力の向上に向けては、補
助金を活用し、北米や欧州等の海外展示会へ出展。
参画企業間で海外展示会の運営方法やPR手法を
共有しながら、各社が消費者やバイヤーの意見、リア
クションに直接触れる経験を積み重ねている。

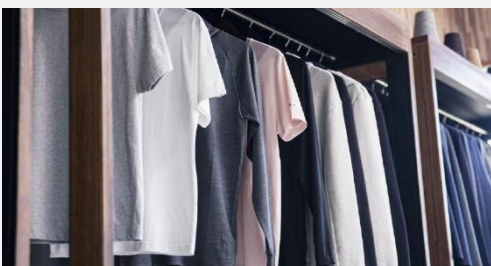
海外での経験を通じて、地元をより深く知る必要性
も感じられ、和歌山地域の若者や学生に向けた和歌
山ニットの紹介イベントも継続的に開催している。



▲海外展示会出展の様子。2023年にはニュー
ヨーク、ロサンゼルス、東京に出展。2024年にはパリ、
ミラノ、ニューヨーク等を予定。

▲地元和歌山県「KASA」にて開催された
和歌山ニットのPRイベント。（2024）

ブランド紹介



和歌山県では江戸時代から綿織物の生産が始まり、紀州藩による足袋生産の
奨励や、明治に入って「紀州ネル」生地による軍用被服の採用などを通じて繊維
産業が根付いてきた。ニットは1909年スイス製丸編機 5 台の導入からスタート。
第二次大戦の空襲の中でも焼失を免れ、新旧の機械が揃っている貴重なニット
産地として戦後発展してきた。

現在、丸編ニット製造業の出荷額では全国の 4 割を占める。

これまでの
主な成果

- ・ WKP商品の受注獲得

今後見据える
展開や課題

- ・ WKP商品の知名度向上、販路開拓
- ・ WKP参加個社にスポットの当たる仕組みづくり



▲ WKP商品

参考となるポイント

企業連携によりBtoCへの展開を目指す

ニット産業は分業体制であり、事業者の減少は地域全体の産業が回らなくなることにつながると考え、地域全体での生き残りを志向。協業事業に対する補助金活用など、個社では難しい規模の投資を実現している。



▲和歌山ニットの作業風景（イメージ）

海外展示会への出展等を通じた若手育成

展示会等の機会には若手を投入し、海外進出や最終製品開発のマインドを芽生えさせ、活動の長期継続を図っている。人材確保においても若手を輝かせることが重要という考え。



▲展示会やイベントにおけるアテンドの様子

ヒアリングで聞かれた声（課題認識や事業のポイント等）

和歌山ニット産地の縮小について、従来強い危機感を抱いていたが、経営者の世代交代に合わせて積極的なアクションも見られるようになっていたことから、まずは志の近い企業同士で集まり、活動していくことにした。

個社ではなく「和歌山ニット」として海外に出て、より地元を学び、地域イメージを洗練していくことも重要であると気づいた。産地をどう見せるかは難しいが、イベントの開催などを通じて、地域の様々な方を巻き込み、盛り上げていくことが重要と考えている。

他地域へのメッセージ

WAKAYAMA KNIT PROJECT 山下氏（株式会社エイガールズ代表取締役社長）

和歌山ニット産業は戦後の高度成長を牽引し、人々が生きていくために欠かせない『衣』を提供してきました。

輸入品が増え、日本のモノ作り文化が消えようとしています。永く継承されてきた技・心・地域を守る為にも、WKPでの体験を参画企業

間で共有することで、私たちは個の集団から組織へと変わりました。産地を持続化させる仲間として個々の技術を活かし、共に商品を開発する事で、急速な学びと成長が出来たと思います。この経験を活かし、他産地の皆様とも協業が出来る事を願っています。



◆担当窓口
株式会社エイガールズ
contact@agirls.co.jp